

第 38 回ニセコ町環境審議会議事録

1. 開催日時 令和5年9月12日（火） 15：30～17：00
2. 開催場所 ニセコ町役場 多目的ホール
3. 出席者 委員：本間泰則氏、黒滝博氏、牧野雅之氏、工藤三智子氏、徳留真子氏、東郷典彰氏（オンライン参加）
事務局：山本副町長、黒瀧課長、長谷部主任、永澤主事

4. 議事内容

（1）報告事項

①会長および副会長の互選について

事務局より、説明があった。特に意見等なし。

②環境審議会の活動概要について【資料1】

事務局より、資料1に沿って説明があった。特に意見等なし。

（2）議 題

・第3次ニセコ町環境基本計画策定における現状と課題について【資料2】【資料3】

事務局より、資料2、3に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（委員）町民のアンケート結果で、この中で優先順位をつける上で、それが町民の意向と一致してるかというのはどのように確認するのか。ゆくゆくは、町民の説明会等でこういったフィードバックをする予定かと思うが、アンケートは町民の立場からすると答えたが、それがどう生かされているかがまだ情報としてない。今後どういう形でこれを展開して、皆さんの同意を得られるかが重要なポイントかと思う。それと、基本環境審議会なので、きちんと環境の意味を理解しないと先に進めない。環境というからには、私たち町民がそれぞれいろんなことをする上での満足度が、充足されてなければならないということが話の原点。例えば今、ニセコ町内で一番問題になっており、町民が困っている一つが地価の高騰。町民にはもう手が出ない。オーバーツーリズムの問題も含め、すごくいいところだという話をここでするのではなく、「ニセコ町は今こういう危機に向かっている」という順番でこの大項目を並び替えていくべき。脱炭素の話についても、事業開発をされる方は排出を抑えるために建物を建てないことが一番。建設するだけでもCO2が排出されるので。少くくらい個人住宅で省エネ改修したとしても話にならない。脱炭素のハードルが高く設定されている。例えば、住宅不足対応として安いアパートを建設するとしても、高気密高断熱の省エネルギー住宅を建て

ようとしたら高額でとても建てられない。そういうことに環境審議会がどう答えを出していくかが必要なことだと思う。町内のごみについては分別も進んでおり、取り組めていると思う。ただ、朝の通勤時に道路脇に本当に多くのごみを見つける。袋に入れたまま車から捨てている人が多いと思うが、これについては資源分野ではなく環境教育の領域になる。最近本当に目について、それを全て拾ってごみ収集所に置いておいたら回収されるかといえ、町指定の袋以外は回収されない。そういった、町民が善意で拾ったものを集めて回収されるようなシステムも必要だろう。それは環境教育なのか、ごみ分野の資源分野なのかかわからないが、そういうことがニセコの環境を暮らしやすくする為には本当に重要な部分だと思う。移住者が多くなり、そういうことをみんなで学習したり、大項目の"生活環境分野"は多分もっと上位に来るべき。他には公共交通機関について。タクシー不足だから公共交通機関を使いましょうではなく、住みよいまちにするためのインフラ整備に注力すべき。

(事務局) 今、総合計画の策定も行っていて、環境基本計画と同時に進行しているが、総合計画の位置付けの中にもいろんな案件が出揃っており、まとめて5つ位の体系にして検討をしてる。その中に環境であったり、公共交通であったり、様々な分野が入っている。脱炭素については特有の課題もありつつ、確かに国や北海道の取り組みは高いハードルが設定されている。項目の優先順位については、今ご意見いただいたようにどこを強く出すべきか含めて今後協議したい。

(副会長) 町民に配布することを考えた場合、イラストや漫画を挿入して分かりやすくしてほしい。省エネ設備の導入も、何を入れたらいいか具体例を提示すると町民も分かるのではないかな。本社で、空調を取り替えたが室内が寒いということで調べてみたら、大きな窓が1枚窓なため寒いことが判明した。ペアじゃなかった。温泉旅館関係のホテルが一番エネルギー出してるから、温泉熱を循環させる省エネを導入したが結局は温泉の量も減少してうまくいかなかった。温泉ヒートポンプを導入してもペイするのに10年ほどかかるので現実的でない。

(委員) これまでの話は全部一つに繋がると思うが、自分たちの生活と水環境、山の環境は自然災害に繋がっている。水の汚染も感じている。土砂が流れやすい為に、移住してきた10年前より川が茶色くなってるイメージがある。川の水質ランキング日本一を取ってはいるが、土砂の流入はあると思う。取り組みに関しては増やすより減らすことを優先的にやったら良いのではないかな。ニセコは暖房の期間が長いので、夏までエアコンを使用するとほとんど一年中冷暖房を使うことになる。そこでいかに空調を減らせるかが課題。宿泊業を営んでいて、ごみについて思うことは、冬の生ゴミについて。お客様の生ゴミと自分の生ゴミもそうですが、コンポストでもいいので改善したい。ごみの問題は正直、ローカルツールだけじゃないと思っている。自分の頭で考えることができる教育、先読みであったり想起できるような子供の教育と、ツーリストへの啓蒙が重要だと考える。

(委員) 行政の人がまとめた内容で、住民がやろうかなと思うことがほとんどなく全然響かない。他の委員の仰っていることには本当に同意できる。このアンケート結果についても、あまり出して欲しくない部分もいくつかあり、例えばニセコ町民が出すごみの量。半分ぐらいは観光客の人が出すごみだと想定できるが、これだけを見ると「私達そんなにごみを出してるかしら」って思われる。私もアルバイトでコンドミニアムの清掃に入っているが、ごみの分別ができてない。観光客はとりあえず燃えるごみに捨てている。他には子育て環境について言うと、公園整備にお金をかけてほしい。ホテルの建設や観光農業をみると、すごく自然破壊しているように見える。それを改善することは大変だと思っている。伐採したところに植樹して、何十年後かに元に戻るとしても、そもそもそれで良いのか疑問がある。町民がこれを見て、環境を守ろうと思うような内容で、今書いてあることは確かにその通りとは思いますが、ニセコ町民にとってこれが目標となるものかどうかは、もう少し具体的にすべき。

(委員) 個別計画ではなく基本計画となると、非常に多くの要求事項を盛り込まなければならず大変な作業だと思う。町民のやる気やモチベーションを低下させない見せ方、重点項目やコラム、イメージを描いて示すことも必要だと思っている。今の計画を見ると保守的な印象を受けるので、町内・町外を問わず訴える必要がある。国や北海道が示す将来像や方向性を意識しつつ、もう少しニセコ町の地域特性の課題も意識して、地域から貢献するようなアウトプット型の発信を意識すべきではないかと感じた。もう一つ脱炭素について、宿泊業の負荷が半分以上ということで、ゼロカーボンに向けて取り組みをする場合、そこを重点的に取り組めば半分以上が0になるのではないかと想像できる。現実的には難しいと思うが、そういったところを重点として掲げることも必要だと思う。、北海道環境財団では水素の設備に対する補助金を交付してるが、最近の動きとして当初は4大首都圏だけということで経産省も動いていたが、最近は東北や北海道にも入ってきており、新潟県や福島県で水素の活用が進んでいる。この計画も12年ということを考えれば、12年後には様々な利活用が進んでいると思うので、もう少し前向きな書きぶりにしても良いと思う。今首都圏は水素バスを導入しているが東京都は国の補助で実は他のエンジンのバスを買うより安く買える逆転現象が起きている。ステーションの問題や水素の価格の問題でなかなか進んでいないが、それは将来的に解決できる。鶏が先か卵が先か、それは解決できると思っているので、そこも書き込んでいただければと思う。もう1点、自然環境と自然資源の活用について、オーバーツーリズムの話もあったが、地域の課題としては国内外から移住者も含めてたくさん訪れており、観光が環境に負荷を与えていることは事実だと思う。その課題はすごく大きく、グリーンツーリズムやアドベンチャートラベルの推進を図っているが、そういった動きと合わせて対策を講じていくことも一つの手だと考える。最後に、パートナーシップとの連携につ

いて、私たちもよく重要と言っているが、地域の環境保全活動団体と事業者の方、例えばニセコでいうと、一次産業の農業や宿泊業の観光に携わる方々との連携について、地域の課題解決には不可欠だと思うので、その辺の書きぶりも少ない印象なので併せて盛り込めると環境保全活動のしやすさやの満足度も上がると思う。ニセコ町は環境保全活動団体の活動が少ないように感じる。移住者の方はおそらく元気だと思うが、もともといらっしゃる方々の活動が低いような印象もあるので、その辺は課題のところに盛り込めれば良いと思う。

(副 町 長) 前の環境基本計画から削除した項目ははあのか。

(事 務 局) 本間会長からもご意見いただいたが、前回の計画は 97 項目あるうちの 40 項目ぐらいしか動いておらず、12 年間の歳月の中で動いていなかった項目についてかなり削減している。

(副 町 長) 環境モデル都市アクションプランも策定中だと思うが、そちらとの整合はとれているのか。牧野委員からご指摘いただいた内容が今後重要になると思うので、検討すること。

(事 務 局) ニセコ町の環境の大枠として環境基本計画があり、その下の計画として脱炭素アクションプランがあるので、そこの整合性はとりつつ、その中の脱炭素を補完する部分については脱アクションプランで取り組もうと考えている。

(会 長) 食品ロスについて、地元の取り組みに関して言えば、ニセコ町には堆肥センターがあって、食品ロスの部分が堆肥になるという仕組みは素晴らしいかといえ、一概にそうではないという考え方もある。

(副 町 長) 牛ふんや尿が入りつつ、それから各家庭についても生分解性の袋に生ごみを入れて、ホテルについても同様に町全体でここまで取り組んでいるところもなかなかないだろうと思う。本来であれば、全部食べるとか必要以上に出さないということが重要だが、農地還元されていることまで含めると悪くないと思う。

(事 務 局) 具体的な内容に入る前に、今日は柱を決めてここから盛り込んでいこうと考えている。これまでの計画は読みにくい印象があったので、今回は「見やすく・読みやすく・わかりやすく」をテーマとして取り組んでいる。町が発注した事業者は、他の自治体でも環境基本計画を策定した実績があり、その中でアニメを入れたりカラフルに作成してわかりやすい計画を作っている。その部分は重々話をしており、子供たちの環境教育の部分もあったが、幅広い世代が見てわかりやすいものを作ろうと考えている。引き続き皆さんのご意見をいただきながら、よりよい計画にしたいと考えている。

5. その他

次回開催スケジュールについて。

6. 閉会

以上

第 38 回ニセコ町環境審議会議事録

1. 開催日時 令和5年9月12日（火） 15：30～17：00
2. 開催場所 ニセコ町役場 多目的ホール
3. 出席者 委員：本間泰則氏、黒滝博氏、牧野雅之氏、工藤三智子氏、徳留真子氏、東郷典彰氏（オンライン参加）
事務局：山本副町長、黒瀧課長、長谷部主任、永澤主事

4. 議事内容

（1）報告事項

①会長および副会長の互選について

事務局より、説明があった。特に意見等なし。

②環境審議会の活動概要について【資料1】

事務局より、資料1に沿って説明があった。特に意見等なし。

（2）議 題

・第3次ニセコ町環境基本計画策定における現状と課題について【資料2】【資料3】

事務局より、資料2、3に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（委 員）町民のアンケート結果で、この中で優先順位をつける上で、それが町民の意向と一致してるかというのはどのように確認するのか。ゆくゆくは、町民の説明会等でこういったフィードバックをする予定かと思うが、アンケートは町民の立場からすると答えたが、それがどう生かされているかがまだ情報としてない。今後どういう形でこれを展開して、皆さんの同意を得られるかが重要なポイントかと思う。それと、基本環境審議会なので、きちんと環境の意味を理解しないと先に進めない。環境というからには、私たち町民がそれぞれいろんなことをする上での満足度が、充足されてなければならないということが話の原点。例えば今、ニセコ町内で一番問題になっており、町民が困っている一つが地価の高騰。町民にはもう手が出ない。オーバーツーリズムの問題も含め、すごくいいところだという話をここでするのではなく、「ニセコ町は今こういう危機に向かっている」という順番でこの大項目を並び替えていくべき。脱炭素の話についても、事業開発をされる方は排出を抑えるために建物を建てないことが一番。建設するだけでもCO2が排出されるので。少くくらい個人住宅で省エネ改修したとしても話にならない。脱炭素のハードルが高く設定されている。例えば、住宅不足対応として安いアパートを建設するとしても、高気密高断熱の省エネルギー住宅を建て

ようとしたら高額でとても建てられない。そういうことに環境審議会がどう答えを出していくかが必要なことだと思う。町内のごみについては分別も進んでおり、取り組めていると思う。ただ、朝の通勤時に道路脇に本当に多くのごみを見つける。袋に入れたまま車から捨てている人が多いと思うが、これについては資源分野ではなく環境教育の領域になる。最近本当に目について、それを全て拾ってごみ収集所に置いておいたら回収されるかといえ、町指定の袋以外は回収されない。そういった、町民が善意で拾ったものを集めて回収されるようなシステムも必要だろう。それは環境教育なのか、ごみ分野の資源分野なのかかわからないが、そういうことがニセコの環境を暮らしやすくする為には本当に重要な部分だと思う。移住者が多くなり、そういうことをみんなで学習したり、大項目の"生活環境分野"は多分もっと上位に来るべき。他には公共交通機関について。タクシー不足だから公共交通機関を使いましょうではなく、住みよいまちにするためのインフラ整備に注力すべき。

(事務局) 今、総合計画の策定も行っていて、環境基本計画と同時に進行しているが、総合計画の位置付けの中にもいろんな案件が出揃っており、まとめて5つ位の体系にして検討をしてる。その中に環境であったり、公共交通であったり、様々な分野が入っている。脱炭素については特有の課題もありつつ、確かに国や北海道の取り組みは高いハードルが設定されている。項目の優先順位については、今ご意見いただいたようにどこを強く出すべきか含めて今後協議したい。

(副会長) 町民に配布することを考えた場合、イラストや漫画を挿入して分かりやすくしてほしい。省エネ設備の導入も、何を入れたらいいか具体例を提示すると町民も分かるのではないかな。本社で、空調を取り替えたが室内が寒いということで調べてみたら、大きな窓が1枚窓なため寒いことが判明した。ペアじゃなかった。温泉旅館関係のホテルが一番エネルギー出してるから、温泉熱を循環させる省エネを導入したが結局は温泉の量も減少してうまくいかなかった。温泉ヒートポンプを導入してもペイするのに10年ほどかかるので現実的でない。

(委員) これまでの話は全部一つに繋がると思うが、自分たちの生活と水環境、山の環境は自然災害に繋がっている。水の汚染も感じている。土砂が流れやすい為に、移住してきた10年前より川が茶色くなってるイメージがある。川の水質ランキング日本一を取ってはいるが、土砂の流入はあると思う。取り組みに関しては増やすより減らすことを優先的にやったら良いのではないかな。ニセコは暖房の期間が長いので、夏までエアコンを使用するとほとんど一年中冷暖房を使うことになる。そこでいかに空調を減らせるかが課題。宿泊業を営んでいて、ごみについて思うことは、冬の生ゴミについて。お客様の生ゴミと自分の生ゴミもそうですが、コンポストでもいいので改善したい。ごみの問題は正直、ローカルツールだけじゃないと思っている。自分の頭で考えることができる教育、先読みであったり想起できるような子供の教育と、ツーリストへの啓蒙が重要だと考える。

(委員) 行政の人がまとめた内容で、住民がやろうかなと思うことがほとんどなく全然響かない。他の委員の仰っていることには本当に同意できる。このアンケート結果についても、あまり出して欲しくない部分もいくつかあり、例えばニセコ町民が出すごみの量。半分ぐらいは観光客の人が出すごみだと想定できるが、これだけを見ると「私達そんなにごみを出してるかしら」って思われる。私もアルバイトでコンドミニアムの清掃に入っているが、ごみの分別ができてない。観光客はとりあえず燃えるごみに捨てている。他には子育て環境について言うと、公園整備にお金をかけてほしい。ホテルの建設や観光農業をみると、すごく自然破壊しているように見える。それを改善することは大変だと思っている。伐採したところに植樹して、何十年後かに元に戻るとしても、そもそもそれで良いのか疑問がある。町民がこれを見て、環境を守ろうと思うような内容で、今書いてあることは確かにその通りとは思いますが、ニセコ町民にとってこれが目標となるものかどうかは、もう少し具体的にすべき。

(委員) 個別計画ではなく基本計画となると、非常に多くの要求事項を盛り込まなければならず大変な作業だと思う。町民のやる気やモチベーションを低下させない見せ方、重点項目やコラム、イメージを描いて示すことも必要だと思っている。今の計画を見ると保守的な印象を受けるので、町内・町外を問わず訴える必要がある。国や北海道が示す将来像や方向性を意識しつつ、もう少しニセコ町の地域特性の課題も意識して、地域から貢献するようなアウトプット型の発信を意識すべきではないかと感じた。もう一つ脱炭素について、宿泊業の負荷が半分以上ということで、ゼロカーボンに向けて取り組みをする場合、そこを重点的に取り組めば半分以上が0になるのではないかと想像できる。現実的には難しいと思うが、そういったところを重点として掲げることも必要だと思う。、北海道環境財団では水素の設備に対する補助金を交付してるが、最近の動きとして当初は4大首都圏だけということで経産省も動いていたが、最近は東北や北海道にも入ってきており、新潟県や福島県で水素の活用が進んでいる。この計画も12年ということを考えれば、12年後には様々な利活用が進んでいると思うので、もう少し前向きな書きぶりにしても良いと思う。今首都圏は水素バスを導入しているが東京都は国の補助で実は他のエンジンのバスを買うより安く買える逆転現象が起きている。ステーションの問題や水素の価格の問題でなかなか進んでいないが、それは将来的に解決できる。鶏が先か卵が先か、それは解決できると思っているので、そこも書き込んでいただければと思う。もう1点、自然環境と自然資源の活用について、オーバーツーリズムの話もあったが、地域の課題としては国内外から移住者も含めてたくさん訪れており、観光が環境に負荷を与えていることは事実だと思う。その課題はすごく大きく、グリーンツーリズムやアドベンチャートラベルの推進を図っているが、そういった動きと合わせて対策を講じていくことも一つの手だと考える。最後に、パートナーシップとの連携につ

いて、私たちもよく重要と言っているが、地域の環境保全活動団体と事業者の方、例えばニセコでいうと、一次産業の農業や宿泊業の観光に携わる方々との連携について、地域の課題解決には不可欠だと思うので、その辺の書きぶりも少ない印象なので併せて盛り込めると環境保全活動のしやすさやの満足度も上がると思う。ニセコ町は環境保全活動団体の活動が少ないように感じる。移住者の方はおそらく元気だと思うが、もともといらっしゃる方々の活動が低いような印象もあるので、その辺は課題のところに盛り込めれば良いと思う。

(副 町 長) 前の環境基本計画から削除した項目ははあのか。

(事 務 局) 本間会長からもご意見いただいたが、前回の計画は 97 項目あるうちの 40 項目ぐらいしか動いておらず、12 年間の歳月の中で動いていなかった項目についてかなり削減している。

(副 町 長) 環境モデル都市アクションプランも策定中だと思うが、そちらとの整合はとれているのか。牧野委員からご指摘いただいた内容が今後重要になると思うので、検討すること。

(事 務 局) ニセコ町の環境の大枠として環境基本計画があり、その下の計画として脱炭素アクションプランがあるので、そこの整合性はとりつつ、その中の脱炭素を補完する部分については脱アクションプランで取り組もうと考えている。

(会 長) 食品ロスについて、地元の取り組みに関して言えば、ニセコ町には堆肥センターがあって、食品ロスの部分が堆肥になるという仕組みは素晴らしいかといえ、一概にそうではないという考え方もある。

(副 町 長) 牛ふんや尿が入りつつ、それから各家庭についても生分解性の袋に生ごみを入れて、ホテルについても同様に町全体でここまで取り組んでいるところもなかなかないだろうと思う。本来であれば、全部食べるとか必要以上に出さないということが重要だが、農地還元されていることまで含めると悪くないと思う。

(事 務 局) 具体的な内容に入る前に、今日は柱を決めてここから盛り込んでいこうと考えている。これまでの計画は読みにくい印象があったので、今回は「見やすく・読みやすく・わかりやすく」をテーマとして取り組んでいる。町が発注した事業者は、他の自治体でも環境基本計画を策定した実績があり、その中でアニメを入れたりカラフルに作成してわかりやすい計画を作っている。その部分は重々話をしており、子供たちの環境教育の部分もあったが、幅広い世代が見てわかりやすいものを作ろうと考えている。引き続き皆さんのご意見をいただきながら、よりよい計画にしたいと考えている。

5. その他

次回開催スケジュールについて。

6. 閉会

以上

第 38 回ニセコ町環境審議会議事録

1. 開催日時 令和5年9月12日（火） 15：30～17：00
2. 開催場所 ニセコ町役場 多目的ホール
3. 出席者 委員：本間泰則氏、黒滝博氏、牧野雅之氏、工藤三智子氏、徳留真子氏、東郷典彰氏（オンライン参加）
事務局：山本副町長、黒瀧課長、長谷部主任、永澤主事

4. 議事内容

（1）報告事項

①会長および副会長の互選について

事務局より、説明があった。特に意見等なし。

②環境審議会の活動概要について【資料1】

事務局より、資料1に沿って説明があった。特に意見等なし。

（2）議 題

・第3次ニセコ町環境基本計画策定における現状と課題について【資料2】【資料3】

事務局より、資料2、3に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（委 員）町民のアンケート結果で、この中で優先順位をつける上で、それが町民の意向と一致してるかというのはどのように確認するのか。ゆくゆくは、町民の説明会等でこういったフィードバックをする予定かと思うが、アンケートは町民の立場からすると答えたが、それがどう生かされているかがまだ情報としてない。今後どういう形でこれを展開して、皆さんの同意を得られるかが重要なポイントかと思う。それと、基本環境審議会なので、きちんと環境の意味を理解しないと先に進めない。環境というからには、私たち町民がそれぞれいろんなことをする上での満足度が、充足されてなければならないということが話の原点。例えば今、ニセコ町内で一番問題になっており、町民が困っている一つが地価の高騰。町民にはもう手が出ない。オーバーツーリズムの問題も含め、すごくいいところだという話をここでするのではなく、「ニセコ町は今こういう危機に向かっている」という順番でこの大項目を並び替えていくべき。脱炭素の話についても、事業開発をされる方は排出を抑えるために建物を建てないことが一番。建設するだけでもCO2が排出されるので。少くくらい個人住宅で省エネ改修したとしても話にならない。脱炭素のハードルが高く設定されている。例えば、住宅不足対応として安いアパートを建設するとしても、高気密高断熱の省エネルギー住宅を建て

ようとしたら高額でとても建てられない。そういうことに環境審議会がどう答えを出していくかが必要なことだと思う。町内のごみについては分別も進んでおり、取り組めていると思う。ただ、朝の通勤時に道路脇に本当に多くのごみを見つける。袋に入れたまま車から捨てている人が多いと思うが、これについては資源分野ではなく環境教育の領域になる。最近本当に目について、それを全て拾ってごみ収集所に置いておいたら回収されるかといえ、町指定の袋以外は回収されない。そういった、町民が善意で拾ったものを集めて回収されるようなシステムも必要だろう。それは環境教育なのか、ごみ分野の資源分野なのかかわからないが、そういうことがニセコの環境を暮らしやすくする為には本当に重要な部分だと思う。移住者が多くなり、そういうことをみんなで学習したり、大項目の"生活環境分野"は多分もっと上位に来るべき。他には公共交通機関について。タクシー不足だから公共交通機関を使いましょうではなく、住みよいまちにするためのインフラ整備に注力すべき。

(事務局) 今、総合計画の策定も行っていて、環境基本計画と同時に進行しているが、総合計画の位置付けの中にもいろんな案件が出揃っており、まとめて5つ位の体系にして検討をしてる。その中に環境であったり、公共交通であったり、様々な分野が入っている。脱炭素については特有の課題もありつつ、確かに国や北海道の取り組みは高いハードルが設定されている。項目の優先順位については、今ご意見いただいたようにどこを強く出すべきか含めて今後協議したい。

(副会長) 町民に配布することを考えた場合、イラストや漫画を挿入して分かりやすくしてほしい。省エネ設備の導入も、何を入れたらいいか具体例を提示すると町民も分かるのではないかな。本社で、空調を取り替えたが室内が寒いということで調べてみたら、大きな窓が1枚窓なため寒いことが判明した。ペアじゃなかった。温泉旅館関係のホテルが一番エネルギー出してるから、温泉熱を循環させる省エネを導入したが結局は温泉の量も減少してうまくいかなかった。温泉ヒートポンプを導入してもペイするのに10年ほどかかるので現実的でない。

(委員) これまでの話は全部一つに繋がると思うが、自分たちの生活と水環境、山の環境は自然災害に繋がっている。水の汚染も感じている。土砂が流れやすい為に、移住してきた10年前より川が茶色くなってるイメージがある。川の水質ランキング日本一を取ってはいるが、土砂の流入はあると思う。取り組みに関しては増やすより減らすことを優先的にやったら良いのではないかな。ニセコは暖房の期間が長いので、夏までエアコンを使用するとほとんど一年中冷暖房を使うことになる。そこでいかに空調を減らせるかが課題。宿泊業を営んでいて、ごみについて思うことは、冬の生ゴミについて。お客様の生ゴミと自分の生ゴミもそうですが、コンポストでもいいので改善したい。ごみの問題は正直、ローカルツールだけじゃないと思っている。自分の頭で考えることができる教育、先読みであったり想起できるような子供の教育と、ツーリストへの啓蒙が重要だと考える。

(委員) 行政の人がまとめた内容で、住民がやろうかなと思うことがほとんどなく全然響かない。他の委員の仰っていることには本当に同意できる。このアンケート結果についても、あまり出して欲しくない部分もいくつかあり、例えばニセコ町民が出すごみの量。半分ぐらいは観光客の人が出すごみだと想定できるが、これだけを見ると「私達そんなにごみを出してるかしら」って思われる。私もアルバイトでコンドミニアムの清掃に入っているが、ごみの分別ができてない。観光客はとりあえず燃えるごみに捨てている。他には子育て環境について言うと、公園整備にお金をかけてほしい。ホテルの建設や観光農業をみると、すごく自然破壊しているように見える。それを改善することは大変だと思っている。伐採したところに植樹して、何十年後かに元に戻るとしても、そもそもそれで良いのか疑問がある。町民がこれを見て、環境を守ろうと思うような内容で、今書いてあることは確かにその通りとは思いますが、ニセコ町民にとってこれが目標となるものかどうかは、もう少し具体的にすべき。

(委員) 個別計画ではなく基本計画となると、非常に多くの要求事項を盛り込まなければならず大変な作業だと思う。町民のやる気やモチベーションを低下させない見せ方、重点項目やコラム、イメージを描いて示すことも必要だと思っている。今の計画を見ると保守的な印象を受けるので、町内・町外を問わず訴える必要がある。国や北海道が示す将来像や方向性を意識しつつ、もう少しニセコ町の地域特性の課題も意識して、地域から貢献するようなアウトプット型の発信を意識すべきではないかと感じた。もう一つ脱炭素について、宿泊業の負荷が半分以上ということで、ゼロカーボンに向けて取り組みをする場合、そこを重点的に取り組めば半分以上が0になるのではないかと想像できる。現実的には難しいと思うが、そういったところを重点として掲げることも必要だと思う。、北海道環境財団では水素の設備に対する補助金を交付してるが、最近の動きとして当初は4大首都圏だけということで経産省も動いていたが、最近は東北や北海道にも入ってきており、新潟県や福島県で水素の活用が進んでいる。この計画も12年ということを考えれば、12年後には様々な利活用が進んでいると思うので、もう少し前向きな書きぶりにしても良いと思う。今首都圏は水素バスを導入しているが東京都は国の補助で実は他のエンジンのバスを買うより安く買える逆転現象が起きている。ステーションの問題や水素の価格の問題でなかなか進んでいないが、それは将来的に解決できる。鶏が先か卵が先か、それは解決できると思っているので、そこも書き込んでいただければと思う。もう1点、自然環境と自然資源の活用について、オーバーツーリズムの話もあったが、地域の課題としては国内外から移住者も含めてたくさん訪れており、観光が環境に負荷を与えていることは事実だと思う。その課題はすごく大きく、グリーンツーリズムやアドベンチャートラベルの推進を図っているが、そういった動きと合わせて対策を講じていくことも一つの手だと考える。最後に、パートナーシップとの連携につ

いて、私たちもよく重要と言っているが、地域の環境保全活動団体と事業者の方、例えばニセコでいうと、一次産業の農業や宿泊業の観光に携わる方々との連携について、地域の課題解決には不可欠だと思うので、その辺の書きぶりも少ない印象なので併せて盛り込めると環境保全活動のしやすさやの満足度も上がると思う。ニセコ町は環境保全活動団体の活動が少ないように感じる。移住者の方はおそらく元気だと思うが、もともといらっしゃる方々の活動が低いような印象もあるので、その辺は課題のところに盛り込めれば良いと思う。

(副 町 長) 前の環境基本計画から削除した項目ははあのか。

(事 務 局) 本間会長からもご意見いただいたが、前回の計画は 97 項目あるうちの 40 項目ぐらいしか動いておらず、12 年間の歳月の中で動いていなかった項目についてかなり削減している。

(副 町 長) 環境モデル都市アクションプランも策定中だと思うが、そちらとの整合はとれているのか。牧野委員からご指摘いただいた内容が今後重要になると思うので、検討すること。

(事 務 局) ニセコ町の環境の大枠として環境基本計画があり、その下の計画として脱炭素アクションプランがあるので、そこの整合性はとりつつ、その中の脱炭素を補完する部分については脱アクションプランで取り組もうと考えている。

(会 長) 食品ロスについて、地元の取り組みに関して言えば、ニセコ町には堆肥センターがあって、食品ロスの部分が堆肥になるという仕組みは素晴らしいかといえ、一概にそうではないという考え方もある。

(副 町 長) 牛ふんや尿が入りつつ、それから各家庭についても生分解性の袋に生ごみを入れて、ホテルについても同様に町全体でここまで取り組んでいるところもなかなかないだろうと思う。本来であれば、全部食べるとか必要以上に出さないということが重要だが、農地還元されていることまで含めると悪くないと思う。

(事 務 局) 具体的な内容に入る前に、今日は柱を決めてここから盛り込んでいこうと考えている。これまでの計画は読みにくい印象があったので、今回は「見やすく・読みやすく・わかりやすく」をテーマとして取り組んでいる。町が発注した事業者は、他の自治体でも環境基本計画を策定した実績があり、その中でアニメを入れたりカラフルに作成してわかりやすい計画を作っている。その部分は重々話をしており、子供たちの環境教育の部分もあったが、幅広い世代が見てわかりやすいものを作ろうと考えている。引き続き皆さんのご意見をいただきながら、よりよい計画にしたいと考えている。

5. その他

次回開催スケジュールについて。

6. 閉会

以上

第 38 回ニセコ町環境審議会議事録

1. 開催日時 令和5年9月12日（火） 15：30～17：00
2. 開催場所 ニセコ町役場 多目的ホール
3. 出席者 委員：本間泰則氏、黒滝博氏、牧野雅之氏、工藤三智子氏、徳留真子氏、東郷典彰氏（オンライン参加）
事務局：山本副町長、黒瀧課長、長谷部主任、永澤主事

4. 議事内容

（1）報告事項

①会長および副会長の互選について

事務局より、説明があった。特に意見等なし。

②環境審議会の活動概要について【資料1】

事務局より、資料1に沿って説明があった。特に意見等なし。

（2）議 題

・第3次ニセコ町環境基本計画策定における現状と課題について【資料2】【資料3】

事務局より、資料2、3に沿って説明があり、その後、意見交換等を行った。説明・意見・審議内容については以下のとおり。

（委員）町民のアンケート結果で、この中で優先順位をつける上で、それが町民の意向と一致してるかというのはどのように確認するのか。ゆくゆくは、町民の説明会等でこういったフィードバックをする予定かと思うが、アンケートは町民の立場からすると答えたが、それがどう生かされているかがまだ情報としてない。今後どういう形でこれを展開して、皆さんの同意を得られるかが重要なポイントかと思う。それと、基本環境審議会なので、きちんと環境の意味を理解しないと先に進めない。環境というからには、私たち町民がそれぞれいろんなことをする上での満足度が、充足されてなければならないということが話の原点。例えば今、ニセコ町内で一番問題になっており、町民が困っている一つが地価の高騰。町民にはもう手が出ない。オーバーツーリズムの問題も含め、すごくいいところだという話をここでするのではなく、「ニセコ町は今こういう危機に向かっている」という順番でこの大項目を並び替えていくべき。脱炭素の話についても、事業開発をされる方は排出を抑えるために建物を建てないことが一番。建設するだけでもCO2が排出されるので。少くく個人住宅で省エネ改修したとしても話にならない。脱炭素のハードルが高く設定されている。例えば、住宅不足対応として安いアパートを建設するとしても、高気密高断熱の省エネルギー住宅を建て

ようとしたら高額でとても建てられない。そういうことに環境審議会がどう答えを出していくかが必要なことだと思う。町内のごみについては分別も進んでおり、取り組めていると思う。ただ、朝の通勤時に道路脇に本当に多くのごみを見つける。袋に入れたまま車から捨てている人が多いと思うが、これについては資源分野ではなく環境教育の領域になる。最近本当に目について、それを全て拾ってごみ収集所に置いておいたら回収されるかといえ、町指定の袋以外は回収されない。そういった、町民が善意で拾ったものを集めて回収されるようなシステムも必要だろう。それは環境教育なのか、ごみ分野の資源分野なのかかわからないが、そういうことがニセコの環境を暮らしやすくする為には本当に重要な部分だと思う。移住者が多くなり、そういうことをみんなで学習したり、大項目の"生活環境分野"は多分もっと上位に来るべき。他には公共交通機関について。タクシー不足だから公共交通機関を使いましょうではなく、住みよいまちにするためのインフラ整備に注力すべき。

(事務局) 今、総合計画の策定も行っていて、環境基本計画と同時に進行しているが、総合計画の位置付けの中にもいろんな案件が出揃っており、まとめて5つ位の体系にして検討をしてる。その中に環境であったり、公共交通であったり、様々な分野が入っている。脱炭素については特有の課題もありつつ、確かに国や北海道の取り組みは高いハードルが設定されている。項目の優先順位については、今ご意見いただいたようにどこを強く出すべきか含めて今後協議したい。

(副会長) 町民に配布することを考えた場合、イラストや漫画を挿入して分かりやすくしてほしい。省エネ設備の導入も、何を入れたらいいか具体例を提示すると町民も分かるのではないかな。本社で、空調を取り替えたが室内が寒いということで調べてみたら、大きな窓が1枚窓なため寒いことが判明した。ペアじゃなかった。温泉旅館関係のホテルが一番エネルギー出してるから、温泉熱を循環させる省エネを導入したが結局は温泉の量も減少してうまくいかなかった。温泉ヒートポンプを導入してもペイするのに10年ほどかかるので現実的でない。

(委員) これまでの話は全部一つに繋がると思うが、自分たちの生活と水環境、山の環境は自然災害に繋がっている。水の汚染も感じている。土砂が流れやすい為に、移住してきた10年前より川が茶色くなってるイメージがある。川の水質ランキング日本一を取ってはいるが、土砂の流入はあると思う。取り組みに関しては増やすより減らすことを優先的にやったら良いのではないかな。ニセコは暖房の期間が長いので、夏までエアコンを使用するとほとんど一年中冷暖房を使うことになる。そこでいかに空調を減らせるかが課題。宿泊業を営んでいて、ごみについて思うことは、冬の生ゴミについて。お客様の生ゴミと自分の生ゴミもそうですが、コンポストでもいいので改善したい。ごみの問題は正直、ローカルツールだけじゃないと思っている。自分の頭で考えることができる教育、先読みであったり想起できるような子供の教育と、ツーリストへの啓蒙が重要だと考える。

(委員) 行政の人がまとめた内容で、住民がやろうかなと思うことがほとんどなく全然響かない。他の委員の仰っていることには本当に同意できる。このアンケート結果についても、あまり出して欲しくない部分もいくつかあり、例えばニセコ町民が出すごみの量。半分ぐらいは観光客の人が出すごみだと想定できるが、これだけを見ると「私達そんなにごみを出してるかしら」って思われる。私もアルバイトでコンドミニアムの清掃に入っているが、ごみの分別ができてない。観光客はとりあえず燃えるごみに捨てている。他には子育て環境について言うと、公園整備にお金をかけてほしい。ホテルの建設や観光農業をみると、すごく自然破壊しているように見える。それを改善することは大変だと思っている。伐採したところに植樹して、何十年後かに元に戻るとしても、そもそもそれで良いのか疑問がある。町民がこれを見て、環境を守ろうと思うような内容で、今書いてあることは確かにその通りとは思いますが、ニセコ町民にとってこれが目標となるものかどうかは、もう少し具体的にすべき。

(委員) 個別計画ではなく基本計画となると、非常に多くの要求事項を盛り込まなければならず大変な作業だと思う。町民のやる気やモチベーションを低下させない見せ方、重点項目やコラム、イメージを描いて示すことも必要だと思っている。今の計画を見ると保守的な印象を受けるので、町内・町外を問わず訴える必要がある。国や北海道が示す将来像や方向性を意識しつつ、もう少しニセコ町の地域特性の課題も意識して、地域から貢献するようなアウトプット型の発信を意識すべきではないかと感じた。もう一つ脱炭素について、宿泊業の負荷が半分以上ということで、ゼロカーボンに向けて取り組みをする場合、そこを重点的に取り組めば半分以上が0になるのではないかと想像できる。現実的には難しいと思うが、そういったところを重点として掲げることも必要だと思う。、北海道環境財団では水素の設備に対する補助金を交付してるが、最近の動きとして当初は4大首都圏だけということで経産省も動いていたが、最近は東北や北海道にも入ってきており、新潟県や福島県で水素の活用が進んでいる。この計画も12年ということを考えれば、12年後には様々な利活用が進んでいると思うので、もう少し前向きな書きぶりにしても良いと思う。今首都圏は水素バスを導入しているが東京都は国の補助で実は他のエンジンのバスを買うより安く買える逆転現象が起きている。ステーションの問題や水素の価格の問題でなかなか進んでいないが、それは将来的に解決できる。鶏が先か卵が先か、それは解決できているので、そこも書き込んでいただければと思う。もう1点、自然環境と自然資源の活用について、オーバーツーリズムの話もあったが、地域の課題としては国内外から移住者も含めてたくさん訪れており、観光が環境に負荷を与えていることは事実だと思う。その課題はすごく大きく、グリーンツーリズムやアドベンチャートラベルの推進を図っているが、そういった動きと合わせて対策を講じていくことも一つの手だと考える。最後に、パートナーシップとの連携につ

いて、私たちもよく重要と言っているが、地域の環境保全活動団体と事業者の方、例えばニセコでいうと、一次産業の農業や宿泊業の観光に携わる方々との連携について、地域の課題解決には不可欠だと思うので、その辺の書きぶりも少ない印象なので併せて盛り込めると環境保全活動のしやすさやの満足度も上がると思う。ニセコ町は環境保全活動団体の活動が少ないように感じる。移住者の方はおそらく元気だと思うが、もともといらっしゃる方々の活動が低いような印象もあるので、その辺は課題のところに盛り込めれば良いと思う。

(副 町 長) 前の環境基本計画から削除した項目ははあのか。

(事 務 局) 本間会長からもご意見いただいたが、前回の計画は 97 項目あるうちの 40 項目ぐらいしか動いておらず、12 年間の歳月の中で動いていなかった項目についてかなり削減している。

(副 町 長) 環境モデル都市アクションプランも策定中だと思うが、そちらとの整合はとれているのか。牧野委員からご指摘いただいた内容が今後重要になると思うので、検討すること。

(事 務 局) ニセコ町の環境の大枠として環境基本計画があり、その下の計画として脱炭素アクションプランがあるので、そこの整合性はとりつつ、その中の脱炭素を補完する部分については脱アクションプランで取り組もうと考えている。

(会 長) 食品ロスについて、地元の取り組みに関して言えば、ニセコ町には堆肥センターがあって、食品ロスの部分が堆肥になるという仕組みは素晴らしいかといえ、一概にそうではないという考え方もある。

(副 町 長) 牛ふんや尿が入りつつ、それから各家庭についても生分解性の袋に生ごみを入れて、ホテルについても同様に町全体でここまで取り組んでいるところもなかなかないだろうと思う。本来であれば、全部食べるとか必要以上に出さないということが重要だが、農地還元されていることまで含めると悪くないと思う。

(事 務 局) 具体的な内容に入る前に、今日は柱を決めてここから盛り込んでいこうと考えている。これまでの計画は読みにくい印象があったので、今回は「見やすく・読みやすく・わかりやすく」をテーマとして取り組んでいる。町が発注した事業者は、他の自治体でも環境基本計画を策定した実績があり、その中でアニメを入れたりカラフルに作成してわかりやすい計画を作っている。その部分は重々話をしており、子供たちの環境教育の部分もあったが、幅広い世代が見てわかりやすいものを作ろうと考えている。引き続き皆さんのご意見をいただきながら、よりよい計画にしたいと考えている。

5. その他

次回開催スケジュールについて。

6. 閉会

以上